



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
- 3. セットアップの流れ
- 4. IM-ExApply for Accel Platform の設定ファイル
 - 4.1. ログ出力設定定義ファイル
 - 4.2. ログ出力先
 - 4.3. IM-ExApply for Accel Platform で利用可能なログ
 - 4.4. ログ出力設定項目
 - 4.5. ログ出力レベル
 - 4.6. ログローテーション
- 5. テナント環境セットアップ
 - 5.1. 共通初期データインポート
 - 5.2. IM-ExApply for Accel Platform 初期データインポート
 - 5.3. サンプルデータインポート
 - 5.4. 提出依頼用初期データインポート
- 6. アップデート・パッチの適用
 - 6.1. アップデート
 - 6.2. パッチ
- 7. アンインストール
 - 7.1. サーバ
 - 7.1.1. メニューの削除
 - 7.1.2. ポートレット情報の削除
 - 7.1.3. テーブルの削除
 - 7.1.4. ファイルの削除
 - 7.1.5. ロールの削除
 - 7.1.6. ジョブネットの削除
 - 7.2. クライアント

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2015-10-01	初版
------------	----

はじめに

本書の目的

IM-ExApply for Accel Platform は、intra-mart Accel Platform上で動作するモジュールとなります。
本書では IM-ExApply for Accel Platform に関するセットアップ内容について説明します。
基本的なセットアップ内容は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」を参照してください。

前提条件

リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

詳細は「[リリースノート](#)」の「[システム要件](#)」を参照してください。

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- 当製品のセットアップを行われる方

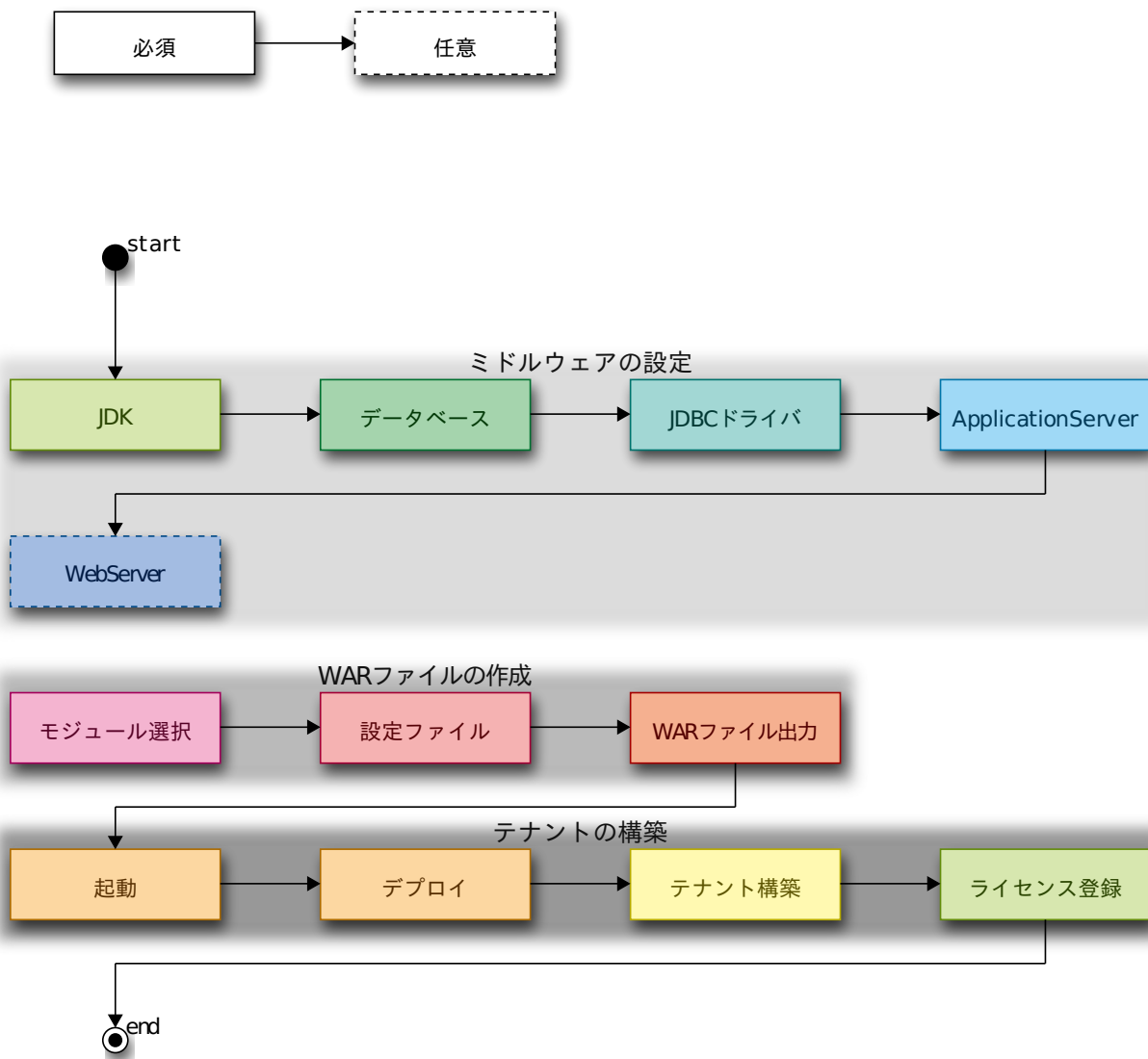
セットアップの流れ

セットアップの手順は次のフローチャートの通りです。
各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。

■ 凡例

必須・・・セットアップが必要な項目です。

任意・・・セットアップをスキップする事ができる項目です。



Name	Description
start	
JDK	JDK
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
ApplicationServer	Web Application Server
WebServer	Web Server
モジュール選択	プロジェクトの作成とモジュールの選択 - 互換モジュールの利用

Name	Description
設定ファイル	基盤の設定ファイル - <i>IM-ExApply for Accel Platform</i> の設定ファイル
WARファイル出力	WARファイルの出力
起動	Web Application Server の起動・停止
デプロイ	WARファイルのデプロイ
テナント構築	テナント環境セットアップ
ライセンス登録	ライセンスの登録
end	

IM-ExApply for Accel Platform の設定ファイル

「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[アプリケーションの追加](#)」より、対象モジュールを選択後、必要に応じて利用するための設定ファイルを編集します。

IM-ExApply for Accel Platform には様々なログ出力機能が用意されています。(intra-martシステムの標準ログ出力機能とは別機能となります) ログ出力機能により出力された情報はEX申請システムを運用中に障害が発生した場合の原因究明に利用できます。

ログ出力設定定義ファイル

以下にログ出力の設定定義ファイルの格納場所を示します。

ログ出力設定は定義ファイルの記述にて行います。

{ iAPインストール先 } WEB-INF/conf/log/scm_log4j_im70.xml

{ iAPインストール先 } WEB-INF/conf/log/sep_log4j_im70.xml

ログ出力先

以下に出力されるログの保存場所を示します。

{ iAPインストール先 } /log/sprist/scm/配下

{ iAPインストール先 } /log/sprist/sep/配下

IM-ExApply for Accel Platform で利用可能なログ

以下に IM-ExApply for Accel Platform で出力可能なログを示します。

表1. IM-ExApply for Accel Platform で出力するログ

アクセス ログ	説明	誰が、いつ、どこから、何の情報に対してアクセスしたのかを出力する。
	出力ファイル名	access.log
	ログ出力レベル	INFO
	ローテーション	年月日 (yyyy-MM-dd)
	ログ出力例	[2016/03/08 13:37:03.473][WARNING][127.0.0.1][default][aoyagi][入力様式マスタメンテ][初期処理]
ディス ポザル ログ	説明	処理結果を出力する。
	出力ファイル名	disposal.log
	ログ出力レベル	INFO
	ローテーション	年月日 (yyyy-MM-dd)
	ログ出力例	[2016/03/08 13:37:03.473][INFO] [メッセージ]
バッチ ログ	説明	バッチ実行時に出力する。
	出力ファイル名	batch.log

ログ出力	INFO
レベル	
ローテーション	年月日 (yyyy-MM-dd)
ログ出力	[2016/03/08 13:50:34.718] [INFO][開始]
例	[2016/03/08 13:50:34.735] [INFO][終了]
トレースログ	説明 エラー発生時にイベントのトレース情報を出力する。
出力ファイル名	trace.log
ログ出力	ERROR
レベル	
ローテーション	年月日 (yyyy-MM-dd)
ログ出力	[2016/03/08 13:37:03.473] [WARNING]
例	[jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.master.event.MPetitionMaintenanceInitDisposalBiz.service] jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.service.MPetitionMaintenanceServiceController.check jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.service.MPetitionMaintenanceControllerConverter.convert jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.service.MPetitionMaintenanceValidator.validate jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.service.MPetitionMaintenanceServiceController.service jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.event.MPetitionMaintenanceEventListener jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.event.MPetitionMaintenanceBiz
エラーログ	説明 エラー発生時にエラー内容を出力する。
出力ファイル名	error.log
ログ出力	ERROR
レベル	
ローテーション	年月日 (yyyy-MM-dd)
ログ出力	[2006/03/08 13:37:03.473][ERROR]
例	[jp.co.nttdata_chugoku.sprist.sep.master.event.MPetitionMaintenanceInitDisposalBiz.service] StackTraceメッセージ～ PetitionNo = 0000000012



注意

リクエスト情報を出力するログ (request.log)、処理の計測時間を出力するログ (timestamp.log)、汎用情報を出力するログ (generic.log) は開発時に利用していたログであり、運用時に利用することはありません。

ログ出力設定項目

以下に IM-ExApply for Accel Platform で出力するログの設定項目を示します。

ログ出力設定	説明
出力レベル	どのログを出力するかを設定することができます。出力レベルは「INFO」、 「WARN」、「ERROR」、「FATAL」の中から選択することができます。また、出力されるログ毎に出力レベルを設定することができます。詳細については「ログ出力レベル」を参照してください。
出力ローテーション	出力するログファイルのローテーションを設定することができます。例) 日単位、週単位、月単位でログファイルを切り替える。



コラム

システム導入時はログ出力レベルは「ERROR」となっております。

ログ出力レベル

以下に IM-ExApply for Accel Platform で出力するログの設定項目を示します。

出力レベルと出力範囲	説明
INFO	情報通知。バッチ処理や自動発行の完了通知など 処理の推移通知する場合に使用する。
WARN	警告。エラーではないが、この状態が続くまたは悪化 するとエラーとなりうる状態が発生した場合が該当する。
ERROR	一般的なエラー。機能提供や処理 の継続が可能なエラー が発生した場合が該当する。
FATAL	致命的なエラー。アプリケーション自体や機能提供、 関連(事後)処理の継続が困難なエラーが発生した場合が 該当する。

ログローテーション

ログを出力するファイルを自動的に切り替えることができます。

切り替えるタイミングはログの種類毎に「月単位」、「週単位」、「日単位」、「時単位」、「分単位」を設定することができます。

以下にログのローテーションを行うタイミングの説明を示します。

ログローテーション タイミング	説明	切り替えた後のファイル名
月単位	月が変わった時点でファイルを切り替えます。	例) ログファイル名.log.yyyy-MM access.log2008-10 access.log2008-11
週単位	週が変わった時点でファイルを切り替えます。 切り替わるタイミングは土曜日から日曜日に変 わる タイミングとなります。	例) ログファイル名.log.yyyy-ww wwの箇所は年の通算週数となります。 access.log2008-20 access.log2008-21
日単位	日が変わった時点でファイルを切り替えます。	例) ログファイル名.log.yyyy-MM-dd access.log2008-10-01 access.log2008-10-02
時単位	時が変わった時点でファイルを切り替えます。	例) ログファイル名.log.yyyy-MM-dd-HH access.log2008-10-01-09 access.log2008-10-01-10
分単位	分が変わった時点でファイルを切り替えます。	例) ログファイル名.log.yyyy-MM-dd-HH-mm access.log2008-10-01-01-01 access.log2008-10-01-01-02



注意

ログローテーションの設定を行ってもファイルが退避されるのみで削除は行いません。
適度なタイミングでログファイルの削除を行ってください。

 コラム

IM-Juggling 上で、設定ファイルを編集するには、

1. < (プロジェクト名) /juggling.im> ファイルをダブルクリックします。
2. 「設定ファイル」タブをクリックします。
3. 対象の設定ファイルを選択し、右側にある「出力」をクリックします。
4. 「ProjectNavigator」内のツリー上に表示されたファイルをダブルクリックして編集を行います。

- この項では IM-ExApply for Accel Platform に関する内容について説明します。
それ以外の説明については、「[テナント環境セットアップ](#)」を参照してください。



注意

WARファイルに含まれているモジュールにより、
テナント環境セットアップにて表示されるウィザードの順序が変わります。

- IM-ExApply for Accel Platform のテナント環境セットアップ手順は次の通りです。

共通初期データインポート

IM-ExApply for Accel Platform を使用する際に必要な基本データ（データベーステーブルの作成、データベース初期データを登録します。初期データのインポートは以下の手順にて行ってください。

- intra-martシステムにEX申請管理者ユーザでログインします。
- 「EX申請システム」 - 「システム」 - 「初期データインポート」より初期データインポート画面を表示します。

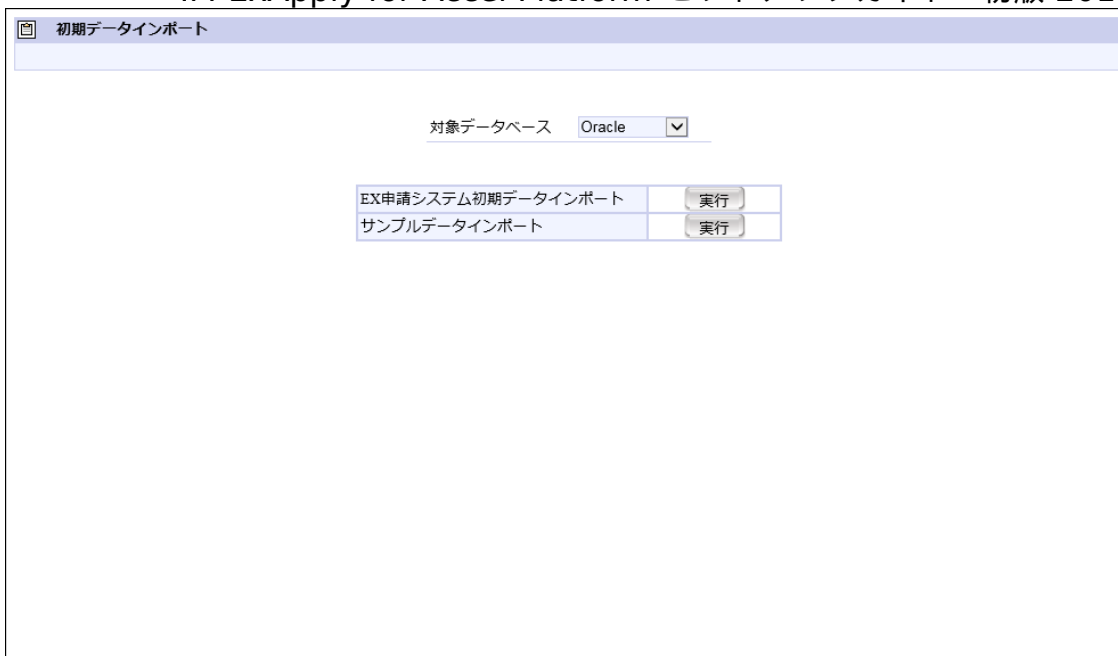
初期データインポート	
対象データベース	Oracle
共通初期データインポート	実行
EX申請システム初期データインポート	実行
サンプルデータインポート	実行

- 初期データをインポートするデータベースの種類を選択します。
- 初期データのインポートが実行されます。

IM-ExApply for Accel Platform 初期データインポート

IM-ExApply for Accel Platform を使用する際に必要な基本データ（データベーステーブルの作成、データベース初期データを登録します。初期データのインポートは以下の手順にて行ってください。

- intra-martシステムにEX申請管理者ユーザでログインします。
- 「EX申請システム」 - 「システム」 - 「初期データインポート」より初期データインポート画面を表示します。



3. 初期データをインポートするデータベースの種類を選択します。
4. 「EX申請システム初期データインポート」ボタンをクリックします。
5. 初期データのインポートが実行されます。

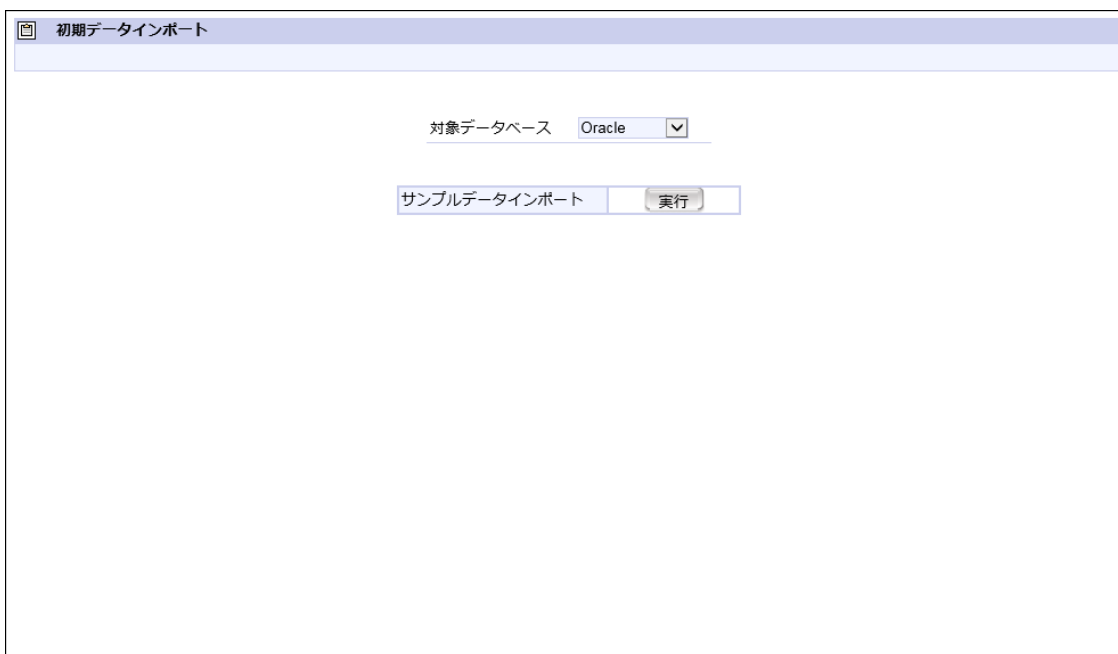
! 注意

- 「EX申請システム初期データインポート」を実行すると、「EX申請システムバージョンアップ用追加データインポート」も実行されます。
- 実行後、「EX申請システム初期データインポート」及び「EX申請システムバージョンアップ用追加データインポート」は画面に表示されません。

サンプルデータインポート

IM-ExApply for Accel Platform のサンプルデータを登録します。サンプルデータのインポートを行うと、サンプルの申請書フォーマットが登録されます。サンプルデータのインポートは以下の手順にて行ってください。

1. intra-martシステムにEX申請管理者ユーザでログインします。
2. 「EX申請システム」 - 「システム」 - 「初期データインポート」より初期データインポート画面を表示します。



3. サンプルデータをインポートするデータベースの種類を選択します。
4. 「サンプルデータインポート」ボタンをクリックします。
5. サンプルデータのインポートが実行されます。



注意

- 運用を開始した後にサンプルデータのインポートを行うと、データが壊れてしまう可能性があります。運用を開始した後にサンプルデータをインポートする場合は、サンプル用に新たなログイングループを作成する、又は、別の環境に本製品をインストールしてから、その環境にサンプルデータをインポートしてください。
- 実行後、「サンプルデータインポート」は画面に表示されません。

提出依頼用初期データインポート

提出依頼機能を使用する際に必要な基本データ（データベーステーブルの作成、データベース初期データ）を登録します。初期データのインポートは以下の手順にて行ってください。

1. intra-martシステムにEX申請管理者ユーザでログインします。
2. 「EX申請システム」 - 「システム」 - 「提出依頼初期データインポート」より初期データインポート画面を表示しま

す。

提出依頼用初期データインポート

対象データベース Oracle

EX申請システム提出依頼用初期データインポート 実行

3. 初期データをインポートするデータベースの種類を選択します。
4. 「EX申請システム提出依頼用初期データインポート」ボタンをクリックします。
5. 初期データのインポートが実行されます。

アップデート・パッチの適用

- IM-Juggling を利用して最新モジュールを適用する事ができます。
詳細は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[アップデート パッチの適用](#)」を参照してください。

アップデート

- アップデートの適用は、「[アップデートの適用](#)」を参照してください。

パッチ

- アップデートの適用は、「[パッチの適用](#)」を参照してください。

- この項では IM-ExApply for Accel Platform に関する内容について説明します。それ以外の説明については、「[アンインストール](#)」を参照してください。
- IM-ExApply for Accel Platform のアンインストールは次の通りです。

サーバ

この項ではサーバに関する内容について説明します。

メニューの削除

グループ管理者にてログインし、「サイトマップ」 - 「テナント管理」 - 「メニュー」から以下のメニューを削除してください。メニューの名称は、初期データによりインストールされた場合のものです。メニュー設定において、メニューの名称を変更していた場合は、該当するメニューを削除してください。

- EX申請システム

ポートレット情報の削除

グループ管理者にてログインし、「サイトマップ」 - 「テナント管理」 - 「ポータル管理」 - 「ポートレット一覧」から、以下のポートレットを削除してください。ポートレット名称を初期データの名称とは違う名前で登録している場合には、該当するポートレットを削除してください。

- EX未申請一覧
- EX再申請一覧
- EXバッチ実行結果
- EX提出依頼

テーブルの削除

以下のファイルのSQLを実行してください。

- { Storage Serviceインストール先 } /sprist/sep/init/sep_drop_table.sql
- { Storage Serviceインストール先 } /sprist/scm/init/scm_drop_table.sql

ファイルの削除

intra-martシステムの各サービスを全て停止させた後、以下のintra-martの各サービスをインストールしている各サーバにおいて以下のファイルを削除してください。

- Storage Service
 - { インストール先 } /sprist/sep 以下全て
 - { インストール先 } /sprist/scm 以下全て

ロールの削除

グループ管理者にてログインし、「サイトマップ」 - 「テナント管理」 - 「ロール」から以下のロールを削除してください。

- EX申請ユーザ
- EX申請管理者

ジョブネットの削除

グループ管理者にてログインし、「サイトマップ」 - 「テナント管理」 - 「ジョブ管理」 - 「ジョブネット設定」から以下のジョブネットを削除してください。

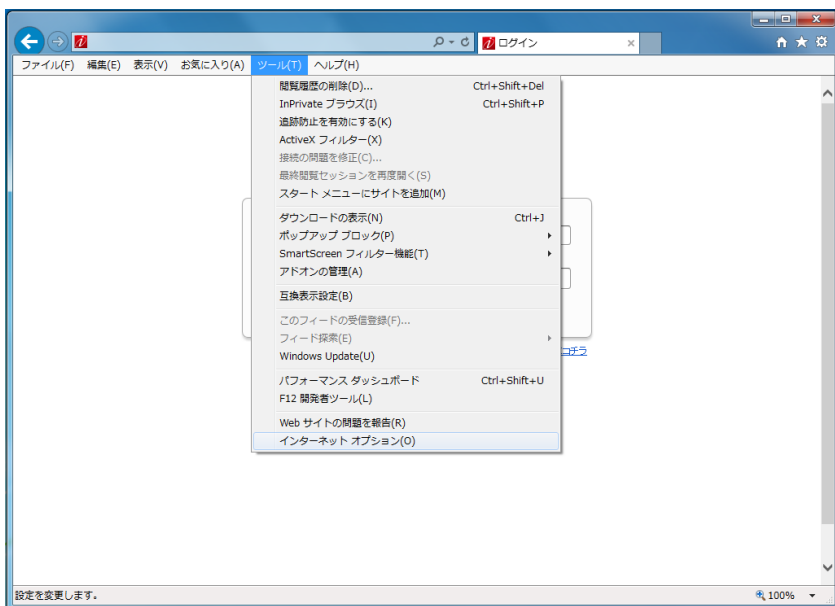
- EX申請データ削除バッチ

- EX申請システム提出依頼バッチ

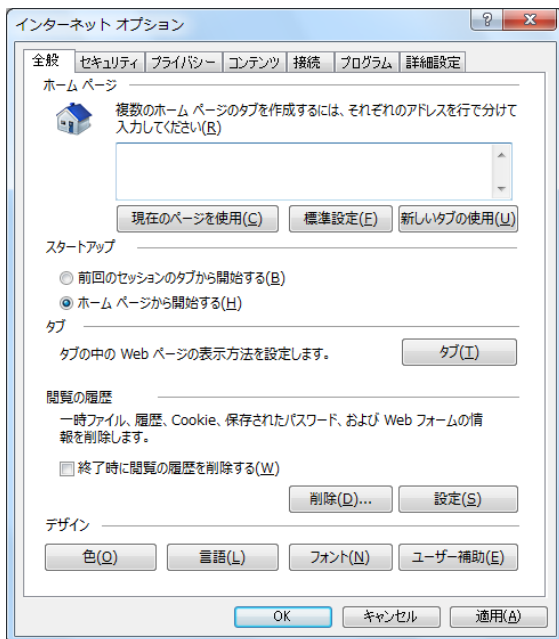
クライアント

IM-ExApply for Accel Platform を使用していた各クライアント端末にて以下の手順にてCABファイルを削除してください。

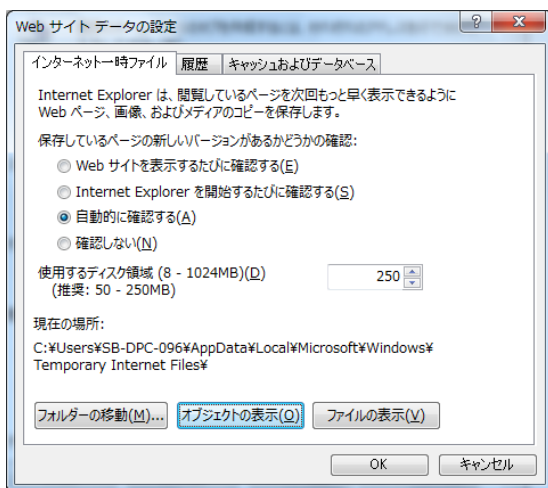
- (1) Internet Explorerのメニューの「ツール」 - 「インターネットオプション」をクリックします。



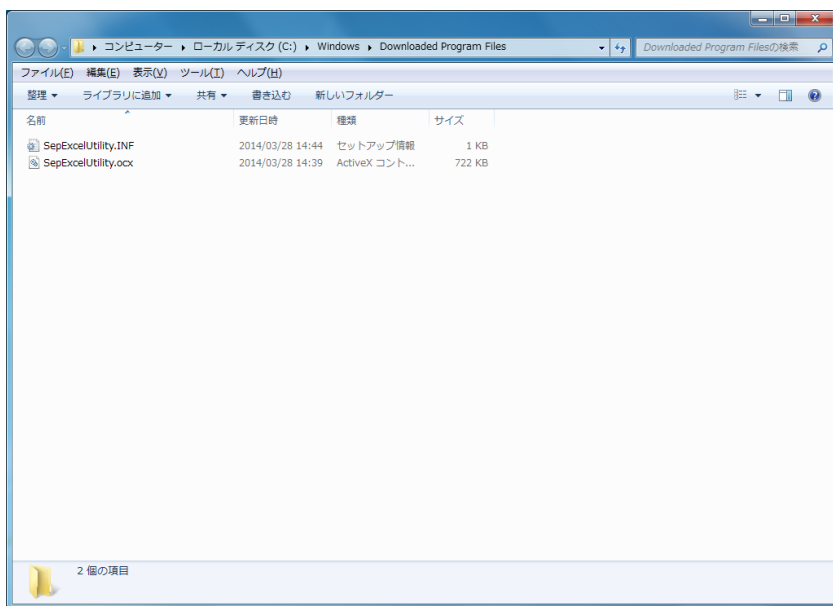
- (2) 「全般」タブの「設定」をクリックします。



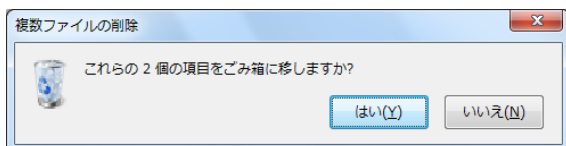
- (3) 「オブジェクトの表示」をクリックします。



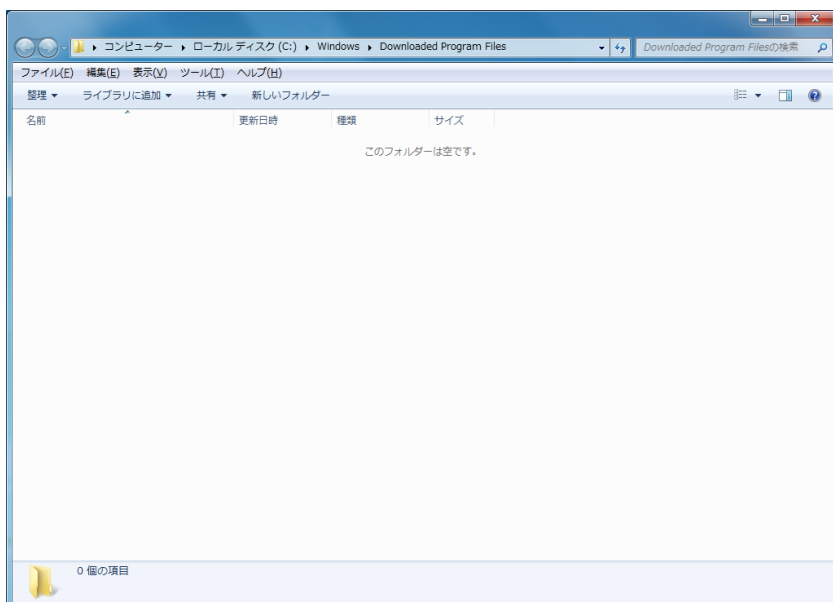
(4) SepExcelUtility.Classを選択し右クリックから「削除」を選択します。



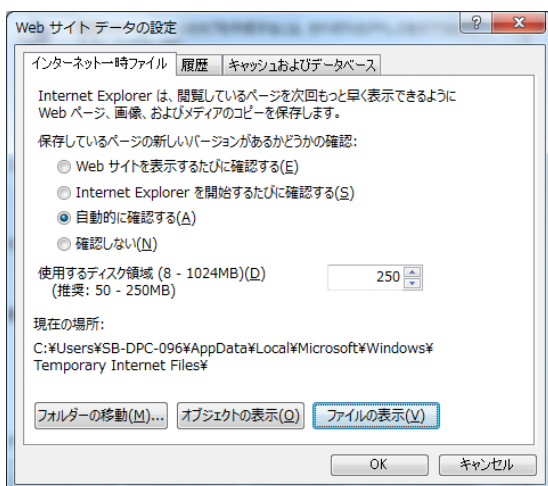
(5) 「はい」をクリックします。



(6) 「×」ボタンをクリックします。



(7) 「OK」をクリックします。



(8) 「OK」をクリックします。

